

【雲仙市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

- ・ Society5.0 時代の到来など児童生徒を取り巻く環境が大きく変化する中で、各教科等の指導を通して「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理された資質・能力をバランスよく育成し全ての児童生徒の可能性を引き出すために、ICT 環境を活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現による教育の質の向上を図る。
- ・ 整備した ICT 環境を活用し質の高い学習活動を実施できる教師の指導力を向上させることで児童生徒に対してより良い教育的効果をもたらす。
- ・ 義務教育9年間を見通しつつ、学習履歴の蓄積・分析・利活用をはじめ、1人1台端末の効果的な活用等による児童生徒一人一人の特性・学習定着度等に応じたきめ細かな指導をめざす。

2. GIGA 第1期の総括

- ・ 端末整備率は市内全校において 100%となった。
- ・ ネットワーク速度について文科省が定める当面の推奨帯域を満たす学校は 12.5%にとどまった。
- ・ 利活用の増加に伴い通信環境が不十分と感じる学校が多くなった。
- ・ 端末活用のルールが柔軟でない。
- ・ 故障時の代替機が十分に用意されていない。
- ・ ICT 機器の活用割合について週3回以上の活用は定着した。
- ・ 1人1台端末の持ち帰り学習利用については、端末導入当初は故障等を心配し、ほとんど行われていなかったが、令和6年度ではほとんどの学校で持ち帰り学習を行っている。持ち帰り頻度については、発達段階に応じた対応を行っており、割合も徐々に増えてきている。

3. 1人1台端末の利活用方策

- ・ 端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持する。
 - ・ 「心の健康観察」に関して、1人1台端末で記録ツールやアンケートツールを活用することで、児童生徒の心身の状況を適宜把握し教育支援を適切に実施する。
 - ・ 各自の制作物をクラウドもしくは一つの画面に集約し、児童生徒同士で参照できる環境を作ること、自身の思考をより深め学びの定着をめざす。
- ・ 文部科学省から提示されている「教育DXに係る当面のKPI」を参考に下記の通り計画する。

KPI		目標値(目標年度)
具体的な方策		
1人1台端末の積極的活用		
毎年度 ICT 研修を受講する教員の率		100% (R7)
・ 教員研修や校長研修を実施し、1人1台端末利活用の意義・目的の理解浸透や、ICTを活用した授業づくりの実践演習を行い端末利活用における学校格差や学級格差を減らす。		
情報通信技術支援員（ICT 支援員）の配置		4校/人 (R10)
・ ICT 支援員が不足している学校に対し、訪問人数や頻度を見直し ICT 支援員を配置する。		
1人1台端末を週3回以上活用する学校の率		小：100% (R7) 中：100% (R7)
・ アンケートツールや記録ツールを活用し、「心の健康観察」を行う		
デジタル教科書を実践的に活用している学校の率		100% (R10)
・ 児童生徒用デジタル教科書を活用し、授業および家庭学習での積極的な活用をめざす。		
個別最適・協働的な学びの充実		
児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用している学校の率		小：80% (R7) 中：100% (R7)
・ 調べ学習や各教科学習の場面でインターネット等活用した知識習得をめざす。		
児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率		小：80% (R8) 中：80% (R8)
・ 授業支援サービスを活用し、児童生徒が自分の考えを自由に表現し整理できる環境を整備する。		
教職員と児童生徒がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率		小：80% (R8) 中：100% (R8)
・ 授業支援サービスを活用し、教職員と児童生徒が資料共有や課題提出を実施する。		
児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率		小：80% (R8) 中：80% (R8)
・ 授業支援サービスを活用し、児童生徒同士が資料共有や作成物の相互参照を実施する。		
児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率		小：80% (R8) 中：80% (R8)
・ AIドリル等を活用し、児童生徒個別の理解度や進度に応じた学習を促進する。		
学びの保障		
希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率		100% (R8)
・ アンケートツールや記録ツールを活用し、「心の健康観察」を行い児童生徒の心身の状況把握や教育相談など適切な支援につなげる。		

希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を実施している学校の率	100% (R8)
・希望する不登校児童生徒に対し安心して本音を話せる環境を用意したうえで教育相談を実施する。	
外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用している学校の率	100% (R8)
・外国人児童生徒が母国語で学習できる環境や英和辞典を自由に使用できる環境を整備する。	
障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校の率	100% (R8)
・希望する児童生徒に対し場所を問わない学習を実施する。	